

(事後評価)

## 水産基盤整備事業

完了後の評価(事後評価)結果準備書説明資料

サロマ湖<sup>コ</sup>地区直轄特定漁港漁場整備事業

令和7年度  
北海道開発局

# 目 次

1. 地区の概要	・ ・ ・ ・ ・	3
2. 事業概要	・ ・ ・ ・ ・	5
3. 効果等の把握	・ ・ ・ ・ ・	9
4. 総合評価	・ ・ ・ ・ ・	17

# 1.地区の概要

サロマ湖漁港は、北海道北東部のサロマ湖とオホーツク海を結ぶ湖口部に位置する第4種漁港(昭和63年3月31日指定)です。

本漁港は、サロマ湖内で生産されたホタテガイの稚貝をオホーツク海の漁場に放流する唯一の航路として、湖内と外海との海水交換機能を有するとともに、周辺海域で操業する漁船の避難拠点として重要な役割を担っています。

サロマ湖地区(全景)



オホーツク海への  
ホタテ種苗放流状況



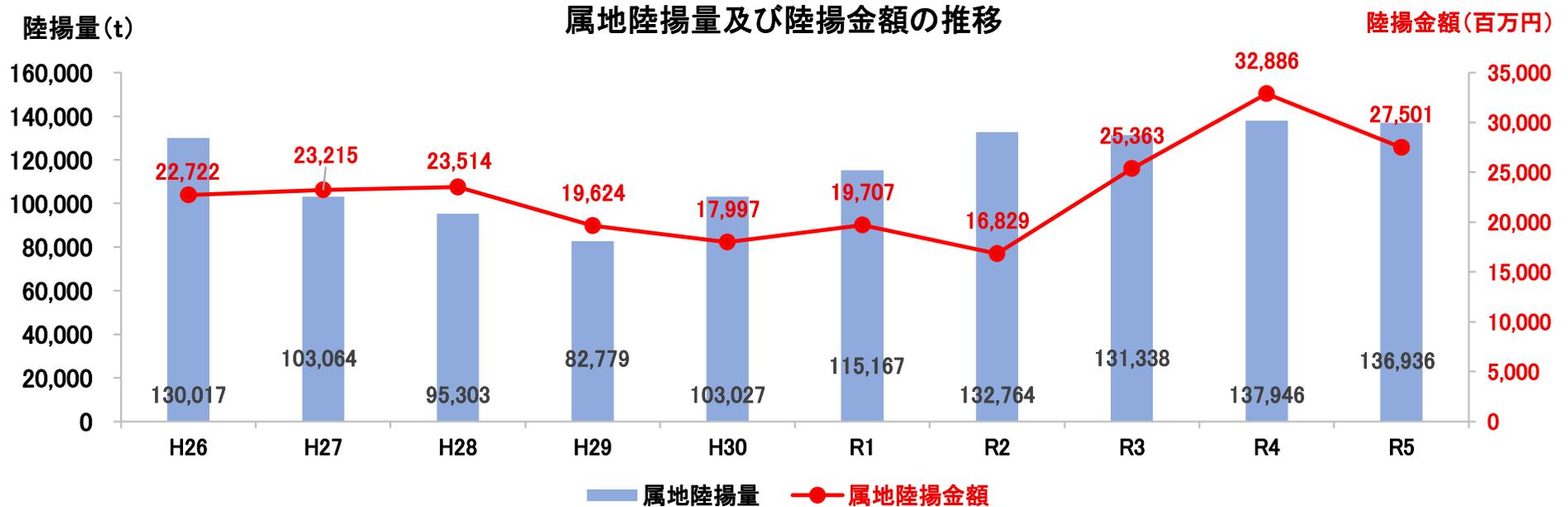
地まきホタテ陸揚げ  
状況(湧別漁港)



# 漁港の港勢等

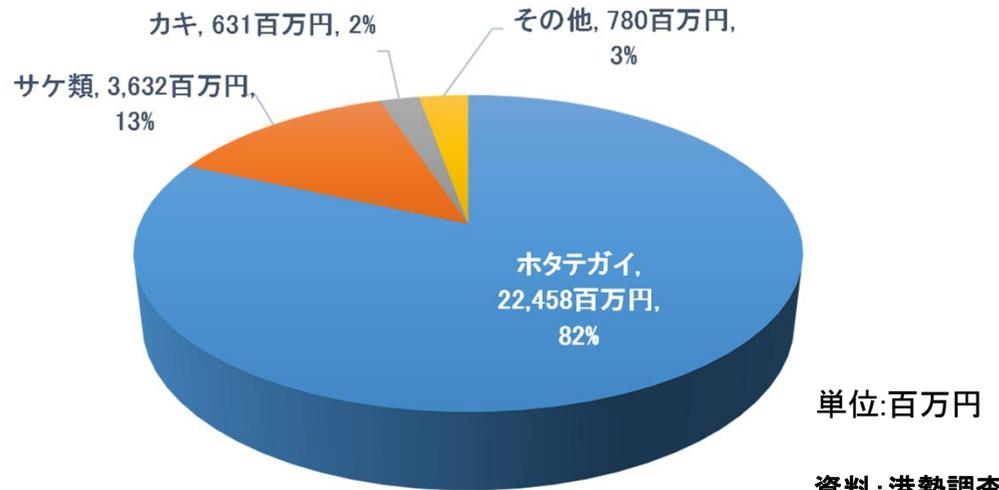
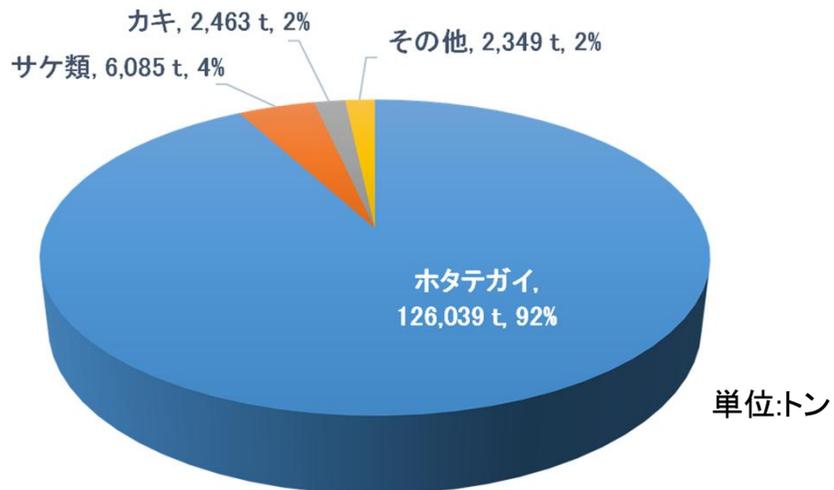
サロマ湖漁港周辺8漁港の近年の陸揚量は13万トン前後、陸揚金額は300億円前後で推移しています。魚種別では、ホタテガイ、サケ類が全体の9割以上を占めています。

※周辺8漁港：常呂河口、栄浦、浜佐呂間、富武士、芭露、登栄床、常呂、湧別



〈周辺8漁港魚種別陸揚量 R5:13.7万t〉

〈周辺8漁港魚種別陸揚金額R5:27,501百万円〉



資料:港勢調査

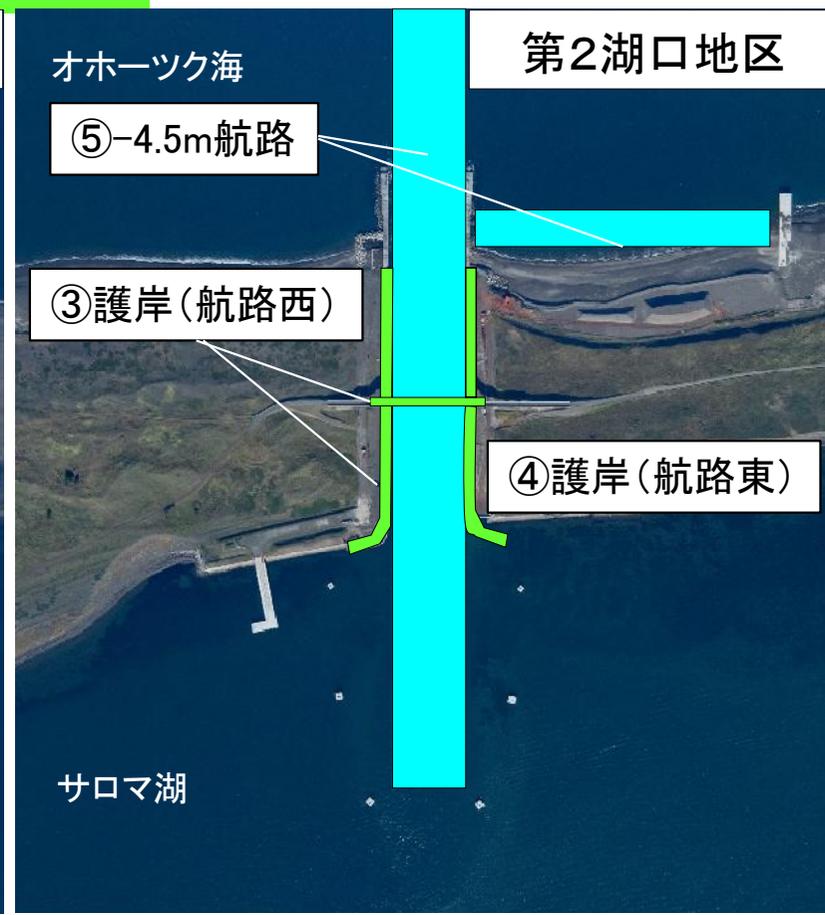
# 2.事業概要

## (1)事業の目的

サロマ湖漁港が抱える課題を解消するため、下記の対策を実施しました。

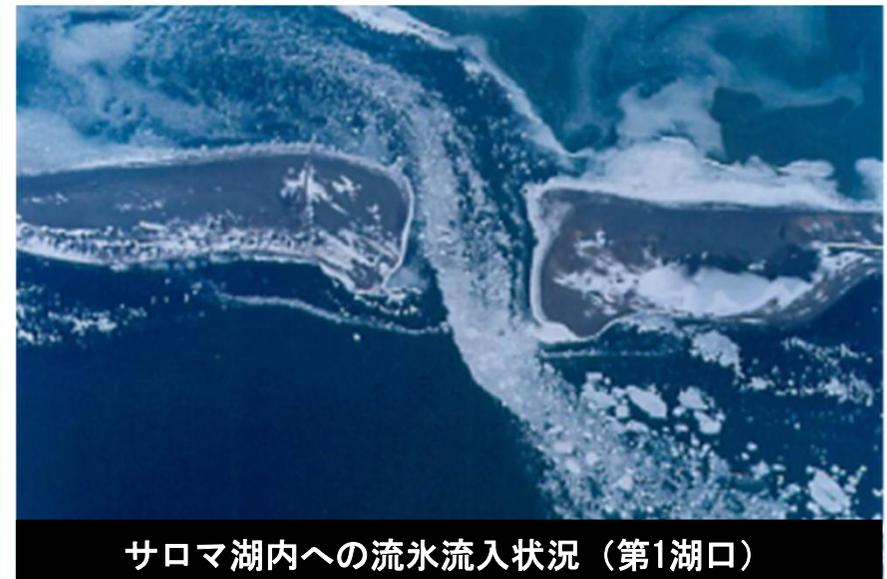
事業費：191.7億円  
事業期間：平成14年度～令和元年度

- 1)流水流入対策(防波堤整備)
- 2)漂砂対策(防波堤・航路整備)
- 3)航路狭隘・老朽化対策(護岸整備)



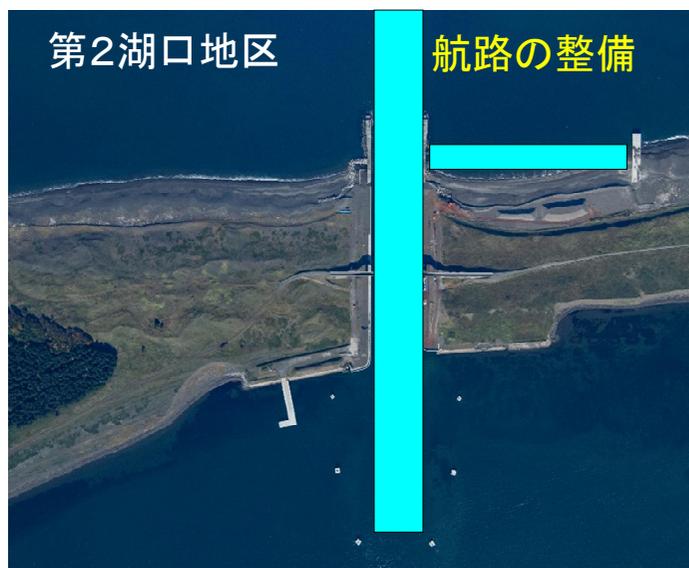
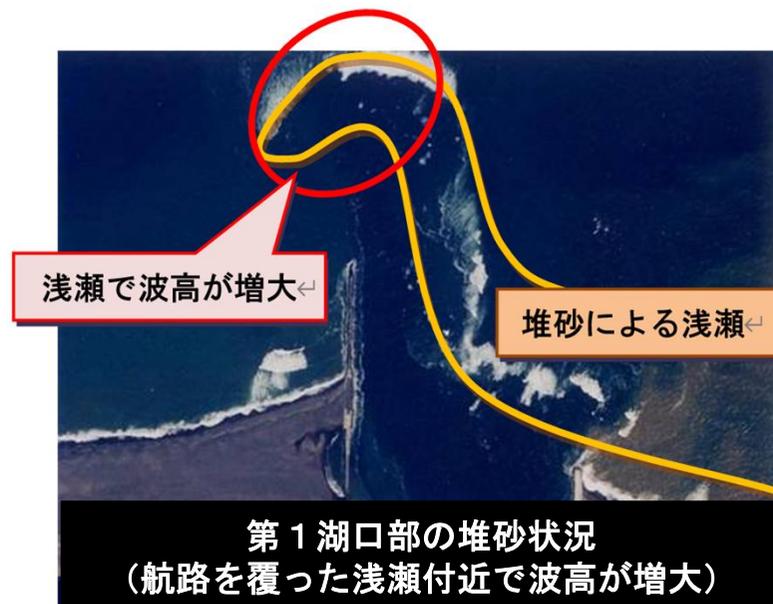
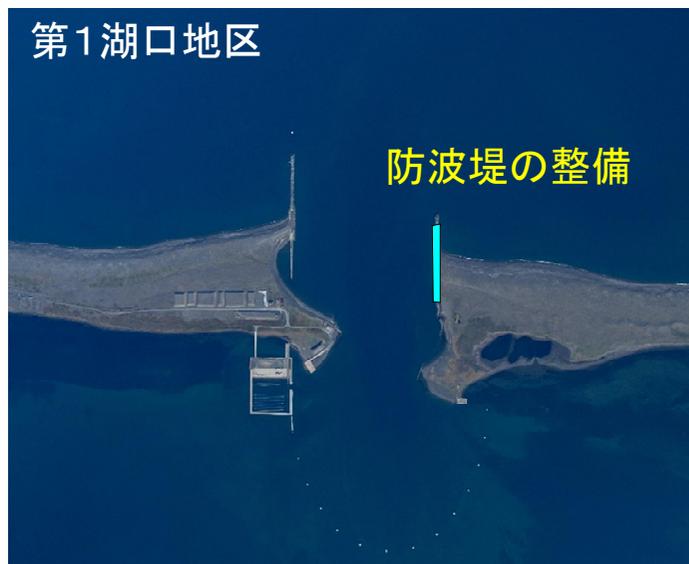
## 1) 流水流入対策(防波堤整備)

サロマ湖漁港沿岸には、毎年3ヵ月以上にわたり流水が接岸します。この流水が湖内に流入し、養殖施設に被害を及ぼすため、漁業者により養殖施設の見回り作業や、作業船による砕氷作業が行われてきました。このため、防波堤整備により、流水の流入を防止し、湖内養殖施設の被害防止を図ることとしました。



## 2) 漂砂対策(防波堤・航路整備等)

第1湖口地区においては、漂砂により形成された浅瀬で波高が増大し、漁船の安全な航行に支障が生じていました。また、第2湖口地区においては、漂砂の影響により航路が埋没した際、第1湖口を経由する非効率な航行が課題となっていました。このため、防波堤や航路の整備により、安定した航路利用を図ることとしました。



### 3) 航路狭隘・老朽化対策(護岸整備)

第2湖口地区は、航路幅が狭く、出港する漁船が航路から外海に出るまでの間、入港する漁船の待機が発生する状況でした。また、護岸の老朽化が著しいことから、航路の安全な航行に支障が生じていました。このため、護岸の整備により、航行する漁船の安全性向上を図ることとしました。



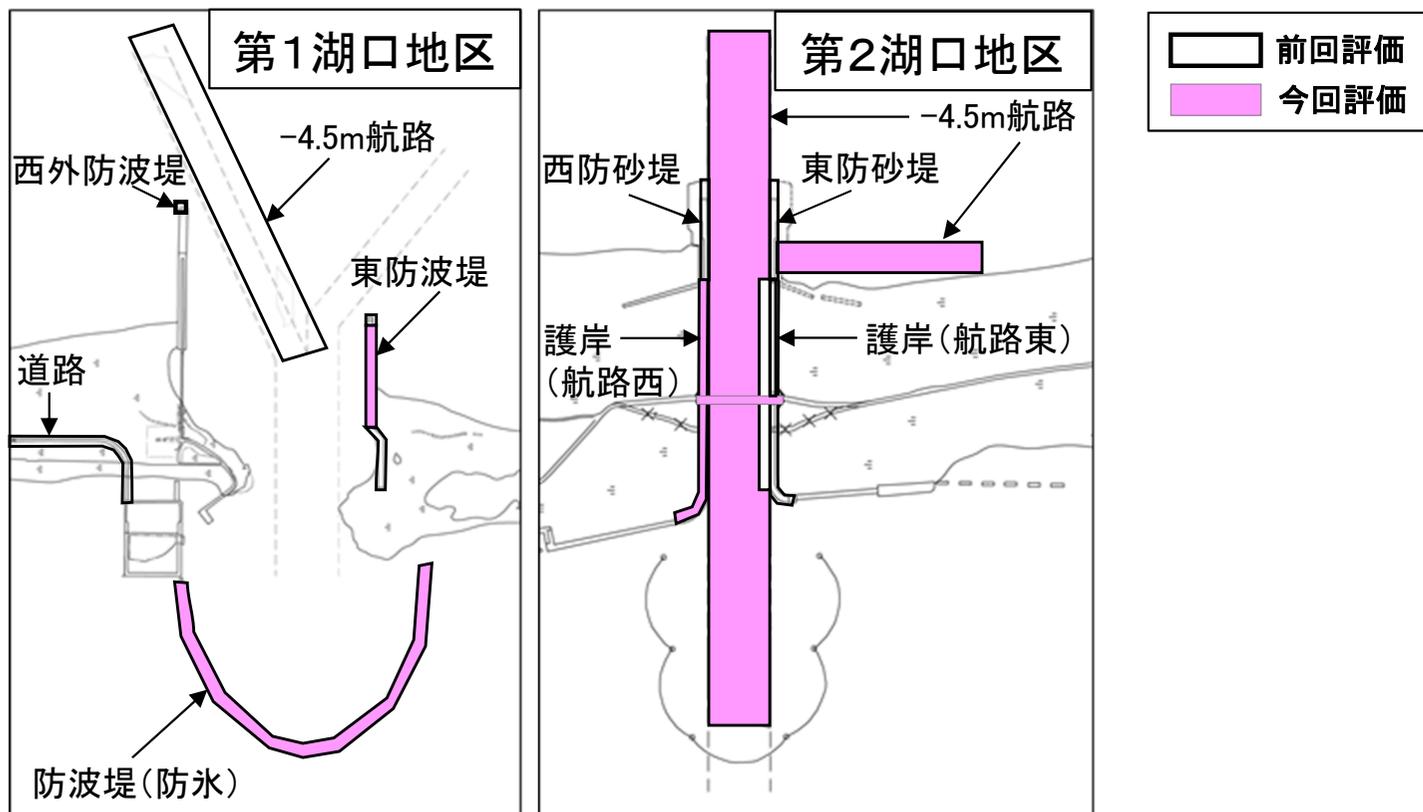
# 3.効果等の把握

## (1)費用対効果分析の算定基礎となった要因変化

### 【計画事業費・事業期間の変更】

	前回評価 (H26期中評価)	今回評価 (R7完了後の評価)	変更内容
事業費	160.6億円	191.7億円	31.1億円増
事業期間	平成14年度～平成31年度	平成14年度～令和元年度	—

### 【事業箇所】



## (2) 事業効果の発現状況

### 1) 定量的な効果

#### 1. 水産物生産コストの削減効果事例

防波堤(防氷)の整備により、大規模な流氷の流入が解消され、流氷被害対策が不要となりました。



#### ■ 利用者の声 (漁港利用者)

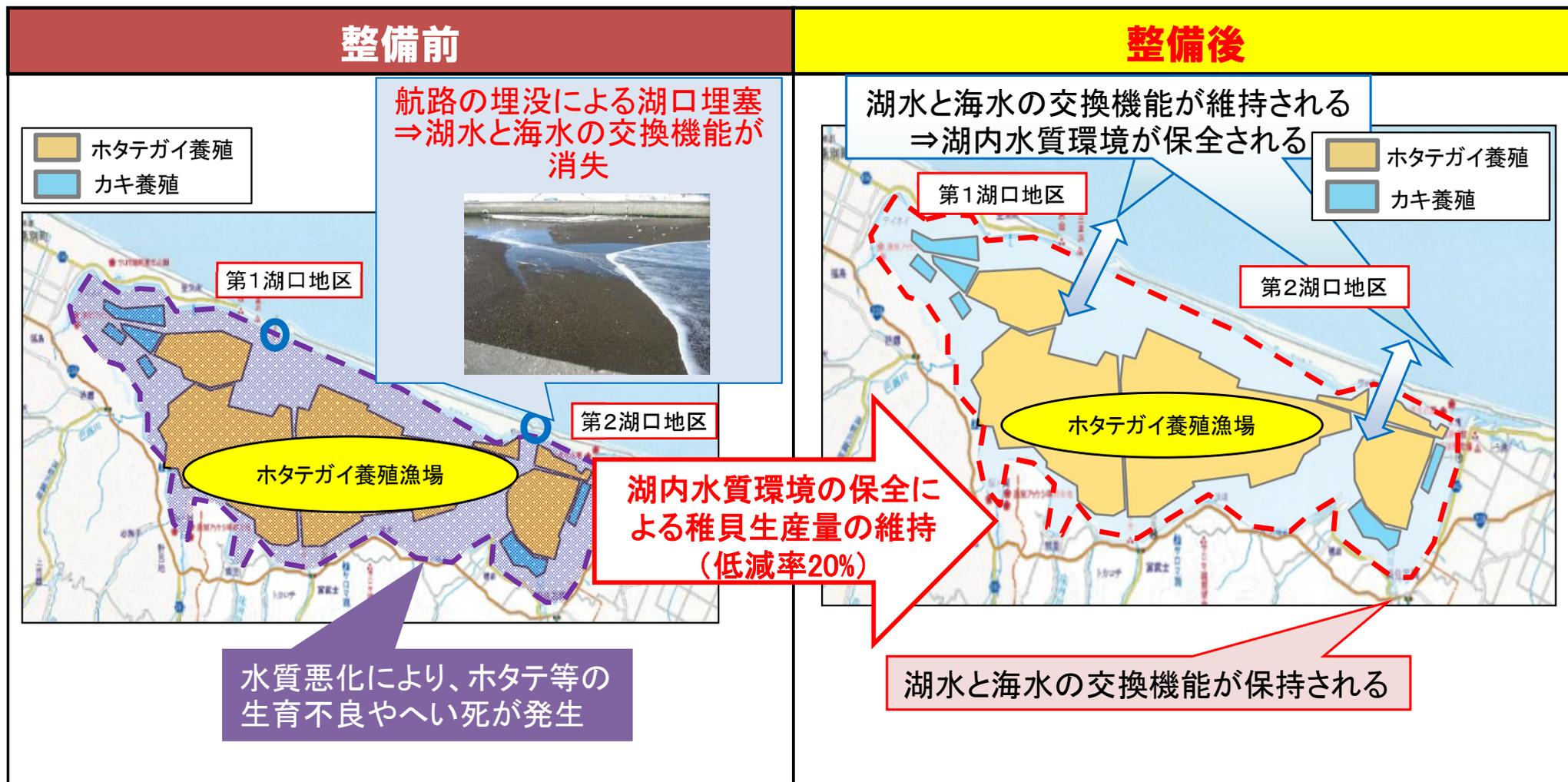
《ホタテガイ養殖漁業者より》

・アイスブーム整備により、流氷による養殖施設被害の心配がなくなり、安心して過ごせるようになりました。また、厳寒期の過酷な砕氷作業等も不要になり、生活の質が向上しました。

水産物生産コストの削減効果:494百万円

## 2. 漁獲可能資源の維持・培養効果事例

防波堤及び航路の整備により、オホーツク海との海水交換機能が保持され、湖内水質環境が保全されることで、ホタテガイ(稚貝)生産量が維持されました。



### ■ 利用者の声 (漁港利用者)

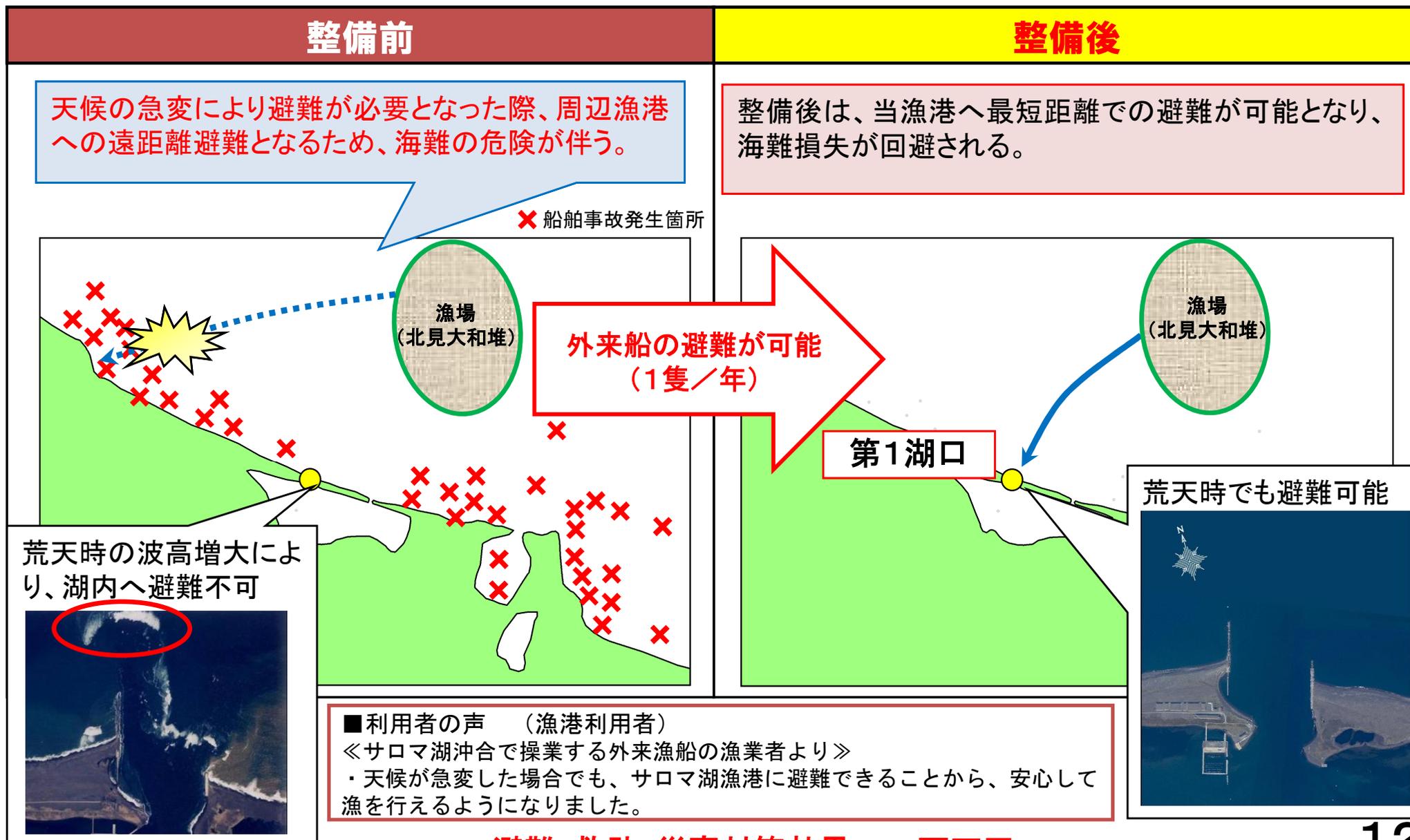
《ホタテガイ養殖漁業者より》

・サロマ湖では、外海との海水交換が湖内の水質環境の保全に必要不可欠で、第1湖口及び第2湖口での交換機能がホタテ生産を支えています。

漁獲可能資源の維持・培養効果: 1,006百万円

### 3. 避難・救助・災害対策効果事例

防波堤及び航路の整備により、航路を安全に航行することが可能となったことから、外来船の避難受け入れ態勢が構築されました。



避難・救助・災害対策効果:136百万円

## 2) 定性的な効果

### ■ホタテガイ生産量確保に伴う地域経済への波及効果

サロマ湖周辺は、ホタテガイの生産量は全国の約3割のシェアを占めており、日本有数の生産拠点となっています。安定的なホタテガイ生産量の確保は、水産加工業や関連産業における雇用維持に寄与しており、ホタテガイを活用した水産物のブランド化や、オホーツクブランドをPRするイベントの開催を通じて、地域の認知度向上や観光振興に結びつき、地域経済の活性化に貢献しています。



令和6年3月完成のJF湧別ほたて加工場



サロマ大収穫祭(出典:佐呂間町HP)

### ■サロマ湖内水質環境の保全効果

地元市町や漁業協同組合は、サロマ湖地域マリンビジョンとして、サロマ湖の環境保全活動を実施しています。また、水質モニタリング、流入河川上流域での植樹活動なども継続的に実施しています。本事業により両湖口の健全性が維持されることで、外海との海水交換が確保され、湖内の水質環境の改善・維持が期待されます。



観測データをHP上で公開  
(出典:サロマ湖養殖漁業協同組合HP)

### (3) 事業により整備された施設の管理状況

本事業により整備された施設は、漁港管理者である北海道に管理委託を行い、漁港の維持、保全、運営が適正に行われています。

### (4) 事業実施による環境の変化

本事業は、騒音、振動、水質汚濁等の環境への影響を配慮して施工が行われており、事業実施による環境の変化は生じていません。

### (5) 社会経済情勢の変化

サロマ湖周辺の自治体や漁港背後地区人口は減少傾向にあるものの、組合員数は安定的に推移しているとともに、近年は、ホタテガイの単価上昇やふるさと納税の返礼品としての需要増加により、漁業経営の安定化が図られています。

### (6) 今後の課題

今後も、航路の機能維持や、湖内への流水流入を防ぐために、施設の機能保全等を適切に行っていく必要があります。

## (7) 事業の投資効果

①条件 基準年度：令和7年度 供用期間：50年

②費用便益比の算定

### 総費用(単純合計)

整備施設	数量	事業費 (億円)
東防波堤	332.0 m	43.3
防波堤(防氷)	1 式	25.9
護岸(航路西)	314.0 m	32.4
護岸(航路東)	222.0 m	20.0
西防砂堤	1 式	2.5
東防砂堤	1 式	2.8
－4.5m航路	1 式	3.2
－4.5m航路	67,700.0m <sup>2</sup>	61.6
合計		191.7

### 総便益(単純合計)

便益内容	便益額 (億円)
水産物生産性コストの削減効果	246.9
漁獲機会の増大効果	2.1
漁獲可能資源の維持・培養効果	502.9
漁業就業者の労働環境改善効果	2.2
避難・救助・災害対策効果	68.2
合計	822.3

### 総費用(現在価値化後)

総費用(C)	513.0億円
--------	---------

### 総便益(現在価値化後)

総便益(B)	542.2億円
--------	---------

### 算定結果

費用便益比(CBR)	$B/C = \frac{\text{便益の現在価値(B)}}{\text{費用の現在価値(C)}} = \frac{542.2}{513.0} = 1.06$
------------	--

《参考》比較結果(社会的割引率)

	社会的割引率1%	社会的割引率2%
費用便益比(B/C)	2.15	1.66

### ③評価結果

		前回評価 (H26期中評価)	今回評価 (R7完了後評価)	備考
事業費(億円)		160.6	191.7	維持管理費除く
整備期間		平成14年度～ 平成31年度	平成14年度～ 令和元年度	
年間便益算 定の根拠 データ	水産物生産コストの削減 効果	494隻	308隻	対象漁船隻数の減
	漁獲機会の増大効果	107百万円	96百万円	対象漁業種の陸揚金額の減
	漁獲可能資源の維持・培養 効果	稚貝生産量3億9,800万粒 単価3.09円/粒	稚貝生産量3億8,799万粒 単価3.55円/粒	種苗単価の上昇
	漁業就業者の労働環境 改善効果	564隻	390隻	対象漁船隻数の減
	避難・救助・災害対策効果	4隻	1隻	避難隻数の減
総費用C(現在価値化後)(億円)		200.4	513.0	
総便益B(現在価値化後)(億円)		225.1	542.2	
費用便益比 (B/C)		1.12	1.06	

## 4.総合評価

本事業では、流水流入対策を図るための防波堤(防氷)整備、漁業活動の安全性向上を図るための航路等の整備を行いました。

貨幣価値化が可能な効果について、費用対効果分析を行ったところ、費用便益比は1.0を超えており、経済効果についても確認されています。

また、貨幣価値化が困難な効果についても、安定的なホタテガイの生産・流通体制の確保等の効果が確認されています。

よって、今後の事後評価及び改善措置の必要性は無いと考えています。

目的としている事業の効果が発現しており、費用対効果分析等の投資効果も確保されていることから、本案を完了後の評価結果の案としてお諮りいたします。